

令和5年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立大森東小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・1年間を通して、テーマを意識しながら作品製作をすることができた。
- ・友達の作品から、よさや工夫したところを見付け、伝え合うことができた。

(2) 課題

- ・作品製作の際、集中が長く続かない。
- ・活動に対して意欲的に取り組み始めるが、より良くしようと工夫する意欲が弱い。
- ・一度学習した道具の使い方、技法などまだ十分に身に付いていないことがある。

2 授業の分析

1 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・クレパスの塗り方を工夫し、混色やぼかしなどを表現に合わせて適切に使い分けることができる。 ・のりを適量つけたり、材料に応じて接着剤を使い分けたりと、材料を選択することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマから表現したい世界を想像し、表したいことを表現することができた。 ・自分で新しいことや好きな物等を想像することが、課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現することに自信が無い 児童が数名いる。

2 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・水を生かして絵の具で濃淡を表現したり、三原色から新しい色を作ったりするなど、水彩絵の具の扱いに慣れることができた。 ・のこぎりを使用する際、抑える力が弱く、上手く切ることができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国の絵画作品や歴史から想像を広げて、材料を工夫して絵に表すことができた。 ・鑑賞の際、友達の作品からよさを感じ取り、感じたことを発表したり、友達に伝えたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業や片付けの合間に集中力が切れてしまう児童がいる。 ・完成までの見通しをもっておらず、時間内に作品が完成できない児童が数名いた。

3 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・紙粘土や針金の特徴を理解し、細かなものも丁寧に表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の表したいことに合わせて材料や表現方法を工夫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と話し合いながら、主体的に図工の造形活動に取り組むことができた。

<ul style="list-style-type: none"> 糸鋸を使う際の準備・使い 方・片付けを学習し、一人で刃の付け替えをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の中の作りたいイメージはあるが、思い通りに表現することが難しい児童が数名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動は意欲的に取り組んでいるが、私語が多い。
---	---	--

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> のりの種類や接着効果の違いを繰り返し説明し、分量の調節を自然と身に付けることができるようにする。 手や体全体の感覚を働かせながら、活動ができる題材を多く取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 好きなものや、気持ち、考えていることを教師が聞き出し、一度言葉に出させることでイメージできるようにする。 想像を広げるための、考える時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品や活動を積極的に褒め、表現活動を楽しめるように声掛けをし、自信につなげる。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 水彩絵の具に胡粉やボンドを混ぜたり、土絵の具を活用したりするなど、表現の幅が広がる題材を取り入れる。 のこぎりを使用する際はペアで、1人は抑える係とするなど、安全に活動ができるよう場の設定を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 描かれた景色、作者の生い立ちなどから、絵に込められた想いを想像することができる題材を取り入れる。 友達の作品から感じたことを発表する際、より具体的なポイントを説明することができるよう指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業の合間で集中力が切れてしまう児童には、細かく注意をし、続きを行いたいと思わせる前向きな声掛けをする。 活動全体の時間や、本時はどこまで進めたらよいかなどの計画を黒板に残すことで、見通しを明確にする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 粘土にも、紙粘土、油粘土、土粘土など種類があり、材料の違いや特徴に合わせて作る形を工夫できるよう指導をする。 ボール盤、ベルトサン 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の表したい表現に合うように、材料をより多く用意し、自由に使うことができるよう児童へ周知をしていく。 作りたいものをイメー 	<ul style="list-style-type: none"> 作品が完成した児童同士で 「自分だったらもっとどこを工夫するか」を伝え合わせることで、意欲的に工夫をすることができ

<p>ダー、ドリルなど児童が扱うことができる道具を増やすことができるよう、題材を工夫する。</p>	<p>ジ通りに表現できない児童には、教師がアイデアスケッチを確認し、材料やポイントのアドバイスをする。</p>	<p>るようにする。 ・授業に関係する私語とそうでない私語を聞き分け、こまめに指導をするようにする。</p>
---	---	--